

山口県病院協会 会報

2018 **10月号** No.61

- 発行日 平成30年10月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人光の会 重本病院

〒759-6312

下関市豊浦町大字黒井97番地50

電話 083-772-0014

FAX 083-774-3460

URL : <http://www.shigemoto.or.jp/>

この度の西日本を中心とした平成30年7月豪雨災害により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災地の一日も早い復旧をお祈りいたします。

一般社団法人 山口県病院協会

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
協会役員コーナー	3ページ
病院スタッフコーナー	4～5ページ
研修会報告	6ページ
医療経営講習会	7ページ
事務長部会コーナー	8ページ
諸会議報告	9ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



医療法人光の会
重本病院

病院長 重本 拓

私どもの病院が、現在の下関市豊浦町にある川棚温泉近くの緑豊かな地域に、5年近くの紆余曲折があったものようやく新築移転し開設できたのが、平成13年3月のことでした。この新病院としての発足を転機に、新たな地域精神保健医療体制のあり方を模索しながら医療の質の向上を図りつつ現在に至っております。

まず入院医療体制ですが、多職種によるチーム医療が謳われた時代、これに対応できる人材の充足が整うのに発足から数年を要しました。しかし現在は精神科急性期治療病棟、認知症疾患治療病棟、精神療養病棟、そして精神科作業療法の施設認可もおり、各々に特徴を持った機能分化した病棟体制での運営となっています。

次に通院・在宅医療体制。近年地域において幅広いニーズに早期にかつ的確に応えることのできる診療の体制づくりが強く求められています。当院では精神科救急・急性期等への対応体制と精神科デイケアや訪問看護も備えることで一層の充実を図って

きました。

三つ目が精神障害者の地域生活支援体制。現在は障害者自立支援法のもとでの障害福祉サービス事業所の3施設を運営し、障害者の地域生活支援にあたっています。

平成16年9月策定の精神保健医療福祉施策の「改革ビジョン」は、従来の入院医療中心から地域生活中心へと大きな転換を促すものでありましたが、現在もなお、この変革期の大きなうねりの中にあり、私ども精神科病院も今後の展望を絶えず模索していかなければならない厳しい状況に置かれています。

<医療法人光の会重本病院の現状>

1) 概要

開設者 重本 拓

第三者評価

財団法人日本医療評価機構 病院機能評価認定

住 所 山口県下関市豊浦町大字黒井97番地50

TEL 083-772-0014

FAX 083-774-3460

E-mail info@shigemoto.or.jp

URL http://www.shigemoto.or.jp

病院長 重本 拓

診療科 精神科・神経科・心療内科・内科

病床数 214床（精神病床）

精神科急性期治療病棟 52床

認知症疾患治療病棟 54床

精神療養病棟 108床

関連施設

障害福祉サービス事業所、ほっとホーム一步社、ワークハウス一步社、支援センター一步社

2) 沿革

昭和3年9月 山口脳病院開設（50床）

昭和24年6月 重本病院へ改名

昭和46年4月 医療法人光の会設立

平成3年4月 社会復帰施設援護寮一步社開設

平成13年3月 現在地に病院新築移転（214床）

3) 特徴

精神病院法が制定されてはいても、まだ県内には精神医療の病院施設が全くなかったころの昭和3年、当院は山口脳病院として開設されている。

その後重本病院へ改名されており、時代の推移とともに精神医療も大きく変遷する中で、当院は一貫して地域の精神科病院としての役割を担い続けている。

平成13年、ようやく現在地に新築移転することができ、新たな病院と付設の障害福祉サービス事業所を車の両輪と位置づけ、地域精神医療の充実と障害者地域生活支援の向上を目標に運営してきて今年で創立90周年を迎えたところである。

協会役員コーナー

病院管理者に必要なものは？



小野田赤十字病院

名誉院長 水田 英司

もう20年以上前の話になりますが、院長になりたての頃読んだ本の中に、国立医療・病院管理研究所の川渕孝一先生（現 東京医科歯科大学大学院教授）の著書で、『これからの病院マネジメント』と題したものがあり、その中の一節に「病院管理者の10の役割」というくだりがあります。

対人的な意味で組織をリードする、環境をモニターし情報を集めて発信する、関係者と折衝する、病院の方向を決定し資源を配分するなど色々な役割が大事であると述べられていますが、それらの役割の中で私が最近あらためて気になったものは、**仲介者**（院内のトラブル解決・コミュニケーションのネットワーク作り）や**トラブル処理者**（組織の存続が危ぶまれる時には自ら陣頭指揮をとる）としての役割です。

現役の院長時代は、まず病院代表者である、したがってオーケストラで言う指揮者である、あるいは組織を改革し経営改善を図る、あるいは予算配分を決定する、病院を代表して色々な集団と折衝する、などの経営や運営に直結した役割を演じてきたものと、自分では思っています。

しかし院長を退いてヒマが出来た所為か、あちこちの部署で職場のムードやちょっとした不平・不満を聞く機会が増え、ああ、自分は知らずに過ごしてきたものが多かったな、と反省しています。**仲介者**や部署内の**トラブル処理者**としての役割は、現役の院長では下手に動けばかえって火付け役にならないとも限らず、それこそまさに院長を退いた私の役割かな、と肝に銘じて日々職員の声に耳を傾けているところです。

病院経営について思うこと

医療法人社団愛命会
大田病院

理事長 吉田 延

山口県病院協会加入病院数は132病院あり、公的医療機関数は36病院、私的医療機関数は96病院である。民間設立の病院がほとんどであり、私のところも民間設立である。その立場から今後の病院経営に関して述べてみたいと思う。

経営面を考えると、収入は診療報酬から成り立っており、人口が減少するとそれだけ収入も減ることとなる。これが第1の問題である。今後、少子高齢化も進み、人口は2050年には1億人を割り込み、65歳以上が4割弱となる。これにより労働人口は減少し、国家の収入も減少し、高齢化になり支出が増大する。これまでとは、かけ離れた環境変化が到来するのは事実である。

これからの諸問題に対するには情報収集能力を充実させた組織を作り、将来に対処する対策をしていくことが重要である。経営に必要なことは、活力のある人材確保が大切であり、活力ある病院を作ることである。諺にあるが、「城を守るのは人である」というように、自らの意志で未来を拓く有能な人材育成が求められる。すると自然と地域社会から信頼され、密着した体制となり、充実した医療経営が営まれてくる。

労働人口の減少に対して国策は無く、諸外国からの人材確保や保有病床等の削減を考慮する必要も出てくる。ここで述べたいのは、時代の変化に対応していくことが出来る組織作りが今後求められるという事である。

医療収入は時代の変化により決定されるため、それらに対することを述べてみた。

病院スタッフコーナー

我が心のふるさと 3年1組



医療法人和同会
防府リハビリテーション病院
看護部長

新宅 美枝子

2015年9月“茨城県常総市 関東豪雨鬼怒川決壊”のニュースと共に濁流の中を電柱にしがみついている男性、家の屋根に上がり助けを待つ人達の映像が繰り返し流れてくる。常総市は高校生まですごした場所である。実家に大きな被害はなかったが、ライフラインは断絶状態であることが分かる。高校3年1組クラスメート達も大きな被害はなかったと聞き、安心する。

数日後、茨城の知人達と共に炊き出しの手伝いに帰省する。焼きそば・焼肉・豚汁・おむすびを作る側で、市の職員が「〇〇避難所に焼きそば〇ヶ・おむすび〇ヶお願いします」と段ボールに入れ、避難場所へと向かうことを繰り返された。たった1日だけの手伝い帰省であったが、心地よい疲労感だった。

常総市も元気をとりもどしつつある2018年、“3年1組クラス会のお知らせ”が届いた。旅程は日光東照宮拝観、龍王峡散策、温泉に入って飲んで歌って語らって……1泊旅行の企画。

クラスメートの殆どの人は茨城県在住なので、夜更けまでの語らい言葉はもちろんあの尻上がりの茨城弁である。「元気で逢うことができ嬉しかった」「あの時はびっくりしたっぺー」「山口からよく来てくれたなー」高校生時代にもどり、茨城弁をたっぷりと堪能した。私の山口弁を聞いたクラスメート達は「山口弁は柔らかくていいねー」と話していた。元気で次の企画をお願いしたく、東照宮にて葵の御紋のついたお守りを幹事さんへプレゼントさせて頂いた。

待つ喜び・当日の出会いの美・自宅に戻っての思い出の1コマ1コマをエネルギーの糧に、歴史的な大改革そして次への布石と言われている診療報酬改定・入院医療に取り組みたいと思っている。

畑違いで二十二年



医療法人和同会
山口リハビリテーション病院
介護リーダー
看護補助者

藤井 政敏

鏡を覗き込むと白髪まじりの髪、皺の増えた顔が映る。最近では、お腹もポッコリ出てきて、もう立派にオッサンの仲間入りだ。昔は細身で肌にも艶があったのだが…。もっとも介護の職に就いたのは二十二歳の時、あれから二十二年も経てば老けもする。介護の仕事に携わる以前の私は左官業をしていた。作業は屋内外問わずきつく、時には腰や肘など体を痛める事もあったが、山口県内あちこち現場に行き、仕事が形として残るので見習いレベルであったとはいえ、充実しておりやりがいもあった。それでも縁が無く三年ほどで辞める事となり、そんな折、今の職と出会った。当時は全く介護の知識が無く、全てにおいて初めての体験で学ぶことも多かった。なんだかんだで、四年目には介護福祉士の資格を取得。その後も様々な経験をし、現在は回復期リハビリ病棟で、看護補助者として他職種と共に生活支援に力を注いでいる。元来、内向的で人と接する事の苦手な自分が、この職種でここまでやってこられたのは、色々な人の助けがあったの

は勿論のこと、この仕事が性に合っていたのだと思う。年を重ねるごとにマラソンや登山、野球観戦などの趣味を持ち、話題の引き出しも増え、患者・利用者様との会話を楽しむ事が出来るようになってきた。何気ない会話から笑いが生まれる事も少なくない。病棟において看護補助者の業務範囲には限りがあるが、やれる事は多くある。会話の中で笑いを誘う事もそのひとつであろう。これからも多くの笑顔が見られていけたらと思う。

病院スタッフコーナー

患者様とご家族への優しい医療を目指す



医療法人信和会
高嶺病院
精神保健福祉士

岡村 真紀

「患者様とご家族への優しい医療を目指す」これが当院の病院理念である。医療に優しさは必要なのだろうか。ふとそんなことを思う。

当院は依存症治療専門病院として36年間、依存症者やそのご家族と向き合ってきた。私はソーシャルワーカーとして彼らの生きざまに触れてきたが、中でもとりわけ治療導入時のかかわりを大切にしている。一見自由奔放に生きてきた依存症者は、その結果、孤独を身にまとい心身ともに傷ついていることが多い。またそのご家族は怒りや悲しみなどの複雑な感情を抱えながら疲弊している。両者は共通して、依存症という病に支配され、家庭や社会から孤立した日々を送ってきているのである。私たちは専門的な知識や技術の提供と同時に、その傷ついた彼らを包み込む優しさを求められるのではないだろうか。

また依存症から回復していく過程で、彼らは新しい生き方と出会う。それまでの自己の体験を謙虚に振り返り、人とのつながりを確かめながら生きていく。孤独から解放されていく中で受け取った優しさは同じ経験をしている仲間へと与えられ、次の回復者を生む。それはまるで優しさの連鎖のようである。

アルコール健康障害対策基本法が施行した今、山口県でも基本計画が策定され、アルコール問題への気運が高まってきた。私たちはひとりでも多くの方にこの温かい人の心が行き交う「優しい医療」を提供し、回復への道を歩んでもらいたいと願っている。

種まくひと



医療法人社団福寿会
福永病院
作業療法士

松岡 健夫

梅雨前に植えたプランターの野菜が無事収穫を迎え、1年かけようやく半歩こぎつけた実感と共に、患者様と一緒に院内厨房にもっていき「これ、俺らが植えた」と、はにかんでおられました。

当会にある重度認知症デイケア・介護老人保健施設のリハビリテーションに加え、当院でも昨年より新たに精神科作業療法が立ち上がりました。院内ではどうしても生活の幅が狭小化しがちで、在宅生活が容易でない方々にも少しでも日々に憩いや豊かさをもって過ごして頂けるよう、「なにもしなくてもいい・強制ではなく、楽しみや自ら楽しめるような環境を提供できれば」と+aを考え務めさせて頂いています。

設備や内容面、患者様の受入れや他職種との連携など一歩ずつ、5年かけなんとか足がかりが見えれば御の字だろうか、大した事はできなくとも出来る事を固めて、着実に前進し継続できればと考えていました。

開設当初は病棟OTが私一人で、目の前の業務に今以上に精一杯でした。そんな折、ある職員に「松岡センセはパイオニアだから」と言われたことが印象的でした。当院に勤め出したばかりで“開拓者”とは恐れ多い、と感じつつも、そもそも精神科作業療法自体が初めから開拓の歴史だったと学んだな、と思い起こしました。三歩進んで二歩下がるどころか、靴の底がぬけてしまう時もあるでしょうが、今ではスタッフも増え、それこそ15世紀頃の各地の開拓者たちが集い労働歌を唄ったように、楽しみをもちながら耕し患者様と種を蒔いていければ五歩は進めるだろうか、と思っています。

研修会報告

平成30年度 病院栄養関係職員医療安全対策研修会

平成30年8月23日（木）山口県総合保健会館多目的ホールにおいて、病院栄養関係職員医療安全対策研修会が開催され、206名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「食中毒予防のための正しい衛生管理について」

講師 病院衛生研究所
所長 尾家 重治 氏

テーマ 「スチコンとプラストチラーを使って楽しく作る介護食」

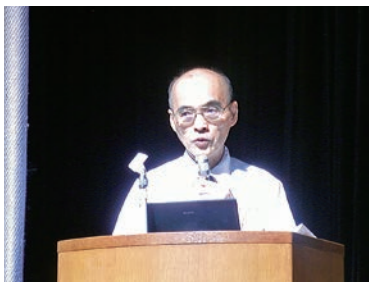
講師 砥部病院ケアサービス株式会社 介護付有料老人ホーム
調理主任 小河原 隆之 氏

テーマ 「栄養部門の医療安全について
～インシデント・アクシデント報告と業務改善方法～」

講師 山口大学医学部附属病院 医療安全推進部
准教授 山口 道也 氏



研修会風景



尾家 重治氏



小河原 隆之氏



山口 道也氏

～病院栄養関係職員医療安全対策研修会を開催して～

8月23日（木）に開催された研修会では、台風が心配される中、管理栄養士・栄養士・調理師など206名の参加がありました。

午前中の「食中毒予防」では、最新の情報が盛り込まれており、食中毒菌について再確認が出来ました。午後からの「楽しく作る介護食」では、見た目もきれいで安全に食べられる介護食を、少ない人数と残業なしで作っておられることに驚きました。スタッフ全員が嚥下調整食のことを理解していなければ出来ないことと感心しました。今回、試食を準備していただき、実際に食べて比較できたことは良かったです。引き続き「医療安全」について学びました。栄養部門では、異物混入や誤配膳などのアクシデントが発生します。次にまた同じアクシデントを起こさないためにも、コミュニケーションは重要だと感じました。

どの講演も、すぐに業務に生かせるもので有意義な内容でした。

今回の企画にご賛同いただき、ご準備ならびにご協力を頂きました病院協会様に心より感謝いたします。



医療法人恵愛会
柳井病院

栄養部 青木 直美

医療経営講習会報告

平成30年度 夏季医療経営講習会

平成30年8月31日（金）、山口グランドホテルにおいて平成30年度夏季医療経営講習会が開催され、120名の参加があった。

テーマ・講師は以下のとおり。

【講習会】

テーマ 「医療の構造改革 変わるのは、今だっ！」

講師 厚生労働省

医務技監 鈴木 康裕 氏



鈴木 康裕氏

講演の後半には質疑応答の時間を設けた。将来の医療・介護の財源について、若い医師が少ない山口県でいかに働き方改革に対応していくべきか、人口減少地域における医療の在り方について等、多くの質問が上がった。鈴木氏は国内外の様々なデータを示しながら答え、充実した講習会となった。



講習会風景

～平成30年度夏季医療経営講習会に参加して～



一般財団法人防府消化器病センター
防府胃腸病院

理事長 三浦 修

平成30年8月31日、平成30年度夏季医療経営講習会が開催された。講師は、厚生労働省医務技監の鈴木康裕先生であり、県内から会員病院の理事長、院長先生、事務長、看護部長はじめ多くのスタッフの方々、さらに賛助会員の方も多くご参加頂いた。広い会場は多くの参加者で、空席もない程であった。

鈴木先生は、昭和59年に慶応大学医学部を卒業された後に、同年当時の厚生省に入省され、保険局医務課長、防衛省衛生監、厚生労働省保険局長などを経て、昨年7月より厚労省医務技監の要職を担っておられ、非常にお忙しい中、今回山口県でのご講演の機会を得ることができた。

今回は、「医療の構造改革変わるのは、今だっ!」と題してのご講演であり、2018年は医療界にとっての「惑星直列」であり、人口、財政、技術などの医療界を取り巻く背景が大きく変わりつつある中、平成30年度の医療と介護の同時改定があり、医師の働き方改革に対しての根本的な対応が必要といった大きな3つの流れの中で、「秩序だった集約化」が重要なキーワードになるのではと強調された。

このままでは、2025年に約583万人の労働力が不足すると予想され、これに対して医療・介護労働者の必要数は増加してくると考えられ、生産性の向上、女性の労働参加促進、69歳までの労働参加率の向上、外国人の労働参加促進などの対策が必要とされた。

また平成30年度診療報酬改定では、2025年に向けて、質が高く効率的な医療提供体制の整備を推進しており、特に入院医療に関しては、個々の患者の状態に応じて、適切に医療資源が投入され、より効果的・効率的に質の高い入院医療が提供されることを求めており、7対1病棟から10対1病棟への弾力的な移行の推進を謳っている。

医師の働き方改革の中で、地域の医療を崩壊させないためにも、医療の現場は環境の変化に応じた変化を求められており、医師でなければできない付加価値の高い業務を優先する必要がある、的確な36協定の締結と届け出、当直体制の見直し、あるいは地域における医療機関の一定の集約化も考えていく必要があるのではとしている。

ご講演のあと、会場での多くの質問に対しても、鈴木先生から丁寧にご対応頂いた。

事務長部会コーナー

平成30年度 山口県病院協会事務長部会 総会及び第1回研修会報告

平成30年6月28日（木）、ホテルニュータナカにおいて、平成30年度山口県病院協会事務長部会総会及び第1回研修会が開催され、109名の参加があった。

【総会】

議案第一号 事務長部会役員の補充選任について

三原常任幹事の退任に伴い、平成30年度山口県病院協会事務長部会役員は以下の通りとなった。

部会長	橋本 雅徳 氏	（周南記念病院 事務局長）
副部会長	嶋崎 隆郎 氏	（都志見病院 事務長）
副部会長	室田 義文 氏	（尾中病院 経営管理部長）
常任幹事	西原 寛之 氏	（周東総合病院 事務長）
常任幹事	石川 和彦 氏	（昭和病院 事務長）
常任幹事	大亀 浩司 氏	（小郡第一総合病院 事務長）



橋本部長挨拶



江澤 和彦氏

【説明会】

「病院における業務継続計画（BCP）策定について」

東京海上日動火災保険株式会社

医療・福祉法人部

課長代理 大町 明弘 氏

【研修会】

テーマ 「わが国の医療介護政策の方向性

～地域包括ケアシステム構築と地域医療構想の実現へ向けて～」

講師 医療法人和香会

倉敷スイートホスピタル

理事長 江澤 和彦 氏



研修会風景

～事務長部会研修会に参加して～



特定医療法人茜会

昭和病院

事務長 石川 和彦

今回の研修会は、会員病院及び賛助会員から109名のご参加をいただきました。研修会に先立ち、東京海上日動火災保険株式会社の村上恒生課長代理より「病院における業務継続計画（BCP）策定」についての説明会がありました。概要としては、医療機関のBCP策定率が他業界と比べ低いとの指摘があり、医療機関に対するBCP策定の促進が求められるとの内容でした。

引き続き行われた研修会は、医療法人和香会理事長の江澤和彦先生より「わが国の医療介護政策の方向性」と題して講演がありました。192枚のスライドにより、地域包括ケアシステムの構築と地域医療構想の実現に向け、多角的かつデータに基づく詳細な講話をいただきました。

また、江澤先生は尊厳の保障へ向けて精力的に取り組んでおられ、「好き好んで病気や障害をきたしている人はいるはずもなく、誰もがその人にとっての本来の普通の生活を望んでおり、その生活の実現すなわち尊厳の保障を実行することが我々の役割である」という言葉を最後に記しておきます。

諸会議報告

平成30年度 第1回診療報酬改定影響度調査検討委員会

日 時 平成30年7月5日（木）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 平成30年度診療報酬改定影響度調査票について
2. その他

平成30年度 第2回理事会

日 時 平成30年7月20日（金）15：30～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 日本医療マネジメント学会 第17回山口県支部
学術集会後援のお願いについて
2. 平成30年度山口県肝疾患コーディネーター養成
講習会の後援のお願いについて

【協議事項】

1. 竹重理事の逝去に伴う委員の交代について
2. 賛助会員一覧のHP掲載について

【報告事項】

1. 平成30年度夏季医療経営講習会について
2. 平成31年度定時総会の開催日について
3. 県行政委員等の推薦について
・山口県死因究明等推進協議会委員
副会長 三浦 修（再任）
4. 県各種委員会等の結果報告について
三浦副会長
・山口県予防保健協会定例理事会（5月31日）
神徳常任理事
・平成30年度山口県看護協会通常総会
（6月17日）
馬場常任理事
・平成30年度健康やまぐち21推進協議会
（6月7日）
西田理事
・平成30年度山口県公衆衛生協会第1回理事会・
評議員会（7月5日）
天津事務局長
・平成30年度山口県配偶者暴力相談支援連絡協議会
（6月18日）

【その他】

平成30年度 第2回診療報酬改定影響度調査検討委員会

日 時 平成30年8月3日（金）16：00～17：30

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 平成30年度診療報酬改定影響度調査票について
2. その他

平成30年度 第3回理事会

日 時 平成30年9月14日（金）15：30～

開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 第15回 山口県ケアマネジメント研究大会
日本介護支援専門員協会中国ブロック研修会へ
の後援依頼について
2. 平成30年度病院中堅看護師研修会について
3. 平成30年度病院看護師長研修会について
4. 平成30年度病院看護補助者・介護職員研修会
について
5. 平成30年度看護部長研修会について

【協議事項】

1. 第24回四県病院協会連絡協議会の提案議題につ
いて
2. 平成31年度定時総会時の特別講演について

【報告事項】

1. 平成30年度 診療報酬改定影響度調査票（案）
について
2. 県行政委員等の推薦について
・宇部・小野田地域保健医療対策評議会委員の
推薦
監事 尾中 宇蘭（再任）
3. 県各種委員会等の結果報告について
木下会長
・第97回山口県医療審議会医療法人部会
（7月27日）
・平成30年度山口県医療対策協議会（7月31日）
馬場常任理事
・健康やまぐち21計画（第2次）中間評価・見
直し
（最終案）（9月6日）
天津事務局長
・平成30年度山口県男女共同参画推進連携会議
（7月20日）

【その他】

平成30年度 第2回情報管理委員会

日 時 平成30年9月18日（火）15：00～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 10月号の発行について
2. 新年号の発行準備について
3. その他



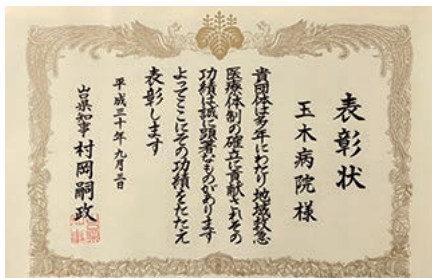
お知らせコーナー

山口県救急医療功労者知事表彰（山口県病院協会推薦）

多年にわたり、地域救急医療体制の確立に尽力された功績により表彰される山口県救急医療功労者知事表彰は、次の病院に決定し、9月3日山口県庁において伝達されました。

おめでとうございます。

玉木病院（病院長 玉木 英樹）



日本医療マネジメント学会 第17回山口県支部学術集会

日本医療マネジメント学会山口県支部学術集会が、宇部市で開催されますのでご案内いたします。

会 長 医療法人社団 宇部興産中央病院 病院長 清水 昭彦

日 時 平成30年10月27日（土）13：00～17：00

会 場 COCOLAND（宇部市上宇部75番地）

【お問い合わせ先】宇部興産中央病院 総務課水津 電話0836-51-9286

会員等の異動

会員の変更

・下関医療センター 病院長 山下 智省（変更前 病院長 佐々木 功典）

・周南記念病院 理事長 中元 賢武（変更前 理事長 竹重 元寛）

法人名の変更

・医療法人社団葵会 稗田病院（変更前 医療法人社団あずま会 稗田病院）

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|---------|---------------|------------------|
| ○10月17日 | 中堅看護師研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○11月9日 | 第4回理事会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○11月26日 | 看護師長研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○12月6日 | 看護補助者・介護職員研修会 | （会場：山口県総合保健会館） |
| ○12月14日 | 第3回情報管理委員会 | （会場：新山口ターミナルホテル） |
| ○1月5日 | 新年互礼会 | （会場：ホテルニュータナカ） |

編集後記

「ロケット“月”旅行に日本人ベンチャー実業家とその全9席を予約した」との報道があった。5年後の話で1000億円弱かかるが8名の芸術家を指名するので一緒に来てほしいとのこと。ビッグデータ、AI、ディープラーニング等で科学は加速度的に進歩し、自動運転が一般的となる未来都市が広がっていくのかもしれない。本報では今年頻りに起こった地震・台風被害など自然災害の心配やお見舞いが多数載っている。人間の営みには関係なく自然はいつも脅威であり、いつも夢を与えてくれる。（高橋幹治）